

# 「商店街NEXTチャレンジャー育成事業」

## 【第9回研究会】

日時：平成31年3月18日（月）18:00～20:00

会場：福岡商工会議所ビル2階 第2研修室

《参加者》20名

### ■商店街関係者（14名）

吉川 和毅（川端中央商店街振興組合）、渡邊 輝彦（大橋商店連合会）  
田崎 浩史（花みずき通り商店会）、吉田 真一（みのしま連合商店街振興組合）  
正木 研次（上川端商店街振興組合）、  
谷 尚史（周船寺商工連合会）、谷 直親（周船寺商工連合会）  
山田 正昭（若宮商店会）、仲盛 弘樹（香椎駅前商店街）  
原田 圭悟（イムズテナント会）、山崎 栄治（新天町商店街商業協同組合）  
印藤 毅（新天町商店街商業協同組合）、糸山 貴美子（みなと銀座商店街振興組合）  
江崎 明男（柳橋連合市場協同組合）

### ■商店街への出店・創業を目指す方（3名）

秦 誠二郎、呉 基弘、矢野 裕樹

### ■商店街の活性化に興味がある方（3名）

谷口 真、羽田野 眞弓、高木 健太

《コーディネーター等》 木藤 亮太（(株)ホーホウ 代表取締役）

飛田 努（福岡大学商学部 准教授）、杉本 宏幸（福岡大学商学部 教授）

## 1.開会

木藤さん：今日で最終回の研究会になります。

昨年の6月からこの研究会を開始し、  
今村部長から見てこの事業はどうでしたか。

今村部長：参加者の方のおかげですごく手応えを感じ  
ています。

木藤さん：どのような手応えを感じていますか。

今村部長：社会人が時間外に集まり、何かを学ぶとい  
う姿をこの研究会で見せてもらい、社会人  
が、まだこんなに学べるのだということを実感しました。



木藤さん：フェイスブックにも投稿されていましたが、明日もセミナーがあるようですが。

今村部長：商工会議所の主催のセミナーで、社会人の学びについてのワークショップがあります。

この研究会での活動や成長をモチーフに話をしようと思っています。皆さんに学ぶ姿勢を見せていただいたことで、次年度以降にもつながり、色々とできるのではないかと感じました。



木藤さん：大人は学ばなくなるものなのではないでしょうか。

今村部長：学校に通っている間は、学びが仕事のようなものですが、仕事をしていると学びは仕事の外側にあると思います。誰かに学ぶ場所に連れて行ってもらったり、一緒に学び合う仲間がいないと、なかなか1人で1から学ぼうとはならないため、このような場があり、仲間がいて、学び合うということができたことが、私としては手応えとして感じています。

木藤さん：参加者の方それぞれ収穫があったこと、思った通りにいかなかったことがあったと思います。今日はそれをみなさんと共有し、また、この事業は次年度も継続して実施する予定ですので、次に向けてのイメージなどもみなさんと共有できればと思っています。

今村部長：次年度に向けては、最後に事務局からも少し説明させてもらえればと思っています。

## 2.研究会全体の振り返り（木藤さん） 別紙資料により説明

・今日で9回目の研究会で最後になるが、これまでの研究会を振り返ってみると、1回目から3回目の研究会では顔合わせや、私も参加者の求めているものをリサーチするため、課題や問題点などを共有しながら進めてきた。

・福岡大学から飛田先生、杉本先生にも参加いただき、アドバイスをもらいながら進めていく中で、「仮説の設定」というキーワードがあった。

・仮説を設定し検証していく議論の方法や、課題の解決方法を学んだのが4回目、5回目の研究会であり、チームごとに仮説の設定、方針を考え議論しながら、それぞれのチームで調査を行い、前回1月28日の発表会では、市の商店街支援施策の協議会委員の前で、各チームから発表をもらった。

・発表会については、新聞にも記事が掲載され、柳橋を調査したチームのツアーの内容も書かれていたが、商店街の活性化や、これからの商店街を考えていくという観点では、非常に面白い取組みが始まりつつあるという評価をいただいたと思う。

・これまでの9回を振り返り、何をやることができたか、私なりに整理したことを少しお話したい。

・私がコーディネーターをさせていただく中で、前提として宮崎県日南市の油津商店街の取組みがあるが、先日、NHKワールドという国際放送で、世界配信用の番組に取り上げてもらい、これは、今もインターネットで見ることができる30分程度の番組である。

・この番組は旅番組で、観光資源を案内する番組であるが、今回は商店街を取り上げてもらい、油津商店街に来ませんかといった内容である。

・油津商店街は日中は人通りも少なく、「人通りは少ないですな」という話しかから始まるが、豆腐屋さんの店主の方は前向きに「このまちは変わったんだ」ということを話しており、IT企業の事務所に入ると、そこでは若い子が働いており、商店街の活性化ということは、昔のように人が賑わって、経済がどんどんよくなっていくということではなく、人の意識が変わることや、若者が関わって新しいことを初めているということが、実は活性化である、といった内容になっている。

・人に会いに行こう、豆腐屋さんのおじさんに会いにいこうとか、そんな雰囲気番組の構成になっていたことは、私も嬉しく思い、それが旅、観光、土地を訪れるという目的になるという、新しい動きではないかと思う。

・美味しいものがある、良いものが買える、景色の良い場所がある、ということだけでなく、面白い人がいて、面白い活動があり、そこに触れに行くということが、これからの観光になるのではないかと、そんな雰囲気を感じさせられる番組であった。

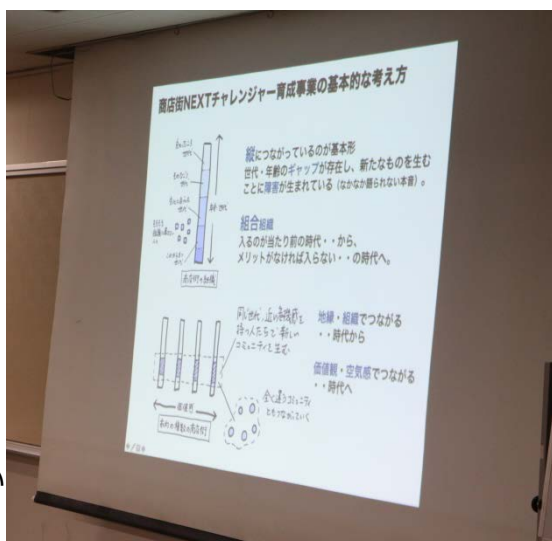
・このNEXTチャレンジャーの事業は、今回若い世代の方や女性の観点をということで参加者を募集し、32名の方に参加してもらい、商店街の方、商店街の空間に興味のある方、商店街のまちづくりに興味のある方に参加いただいた。

・当初はあまり固定したプログラムは決めずに、参加者の方と課題を共有しながら進め、横のつながりや交流が少ないことや、他の商店街をなかなか見る機会が少ないこと、変化したいという気持ちは高いが、方向性が分からないといったことが見えてきた。

・この研究会では答えを導くのではなく、参加者同士でコミュニティをつくる感覚や、気づきを重視し、体験を通して目を養うことに取り組んできた。

・それぞれの商店街の基本的な構造は、縦につながっており、世代や年代の関係性になるが、それぞれの時代背景により、考え方が違う人がおり、そこに少しギャップが生じ、新しいことを生み出すことの障害になっていることは、なかなか本音では語られないが、みなさん場で感じていることではないかと思う。

・商店街の組織で言えば、昔は組織に入ることが当たり前の時代であるが、今は、入るメリットが感じられないと入らないとか、そもそも組織に興味がないとか、このような感覚が存在する時代になってきており、組織には属さない人もいる状況もある。



- ・今は、地縁や組織でつながるという時代よりも、価値観や空気感でつながる時代かなと思う。
- ・同じ世代や同じような課題への感覚をもった人がつながり、商店街の縦割りの中で、少し横でつながっていきこうということが、この研究会の趣旨のひとつでもあると思う。
- ・同じ世代や同じような危機感を持つ人たちで、新しいコミュニティを生みだそうということである。
- ・さらに、そこに商店街の組織に属していない人、あるいは商売をしていなくても、デザインをやっている人、まちづくりに関わっている人など、全く違うコミュニティでも同じような価値観をもっている人たちも、つながっていいのではないかと、新しいコミュニティを作ることも必要なのではないかとと思う。
- ・商店街の中で、新しいものを生みだそうとすると、商店街の中でしっかりと議論をしていく必要があるが、それを一人で考えるのではなく、横のつながりや、価値観のつながりから得られる勇気や力をうまく変換しながら、行動に移していくことができればと思う。
- ・横のつながりから力をもらい、それを上にあげていくような動きができないか、それがこの研究会のひとつの趣旨ではないかと感じた。
- ・今回は、参加者でチームをつくり、対話や意見交換をしながら、自分達で解決方法を探り、思考錯誤する時間を重視し、人の商店街を見て、いろんな議論を交わし、自分なりの気づきを得ることで、自分の商店街を見たときに、何か違う見え方がするのではないかとということで、自分の商店街やまちを客観視できる目を養うことを大きな目的として進めてきた。
- ・今後どうしていくべきか、色々と整理するべきこともあるが、今日は4つの方法を挙げている。
- ・1つ目は「他の商店街の視点を取り入れる」ことで、これまでみなさんが色々と意見交換をされる中で、自分の商店街とは違う視点があるということに気づいたと思うが、そのような意見や視点を、自分の商店街やまちで参考にしていくということであり、今回の研究会では、美野島商店街は、他の商店街の意見を聞きながら、改めて自分の商店街の魅力や可能性を認識し、発表にもあったような提案に至った。
- ・2つ目は「複数の商店街で連動する」という考え方で、それぞれの商店街での役割や、立地条件や業種構成も異なるが、香椎と御供所を調査したチームは、全く違う性格の商店街で、それを上手くつなぎ合わせていく意見もでており、そのように連動させるという考え方もあると思う。
- ・3つ目は「コラボレーション」ということで、複数の商店街が融合して一つの事業に取り組むということで、大橋と香椎の商店街ではクリスマスマーケットを同時開催し、大きなまちに対抗していきこうといった動きであり、並列でつながっていくということもある。
- ・4つ目は「他の概念を取り入れ、新しい概念の事業をつくる」ということで、これまでやっていた事業に、他のアイデアや概念を加えるということで、これが一番重要なことで、自分達の弱みを強みに変えていくための考え方を生みだしていくこと、今回の研究会で、柳橋のチームは、試行的にツアーをする中で、元々の良さが弱みにもなっており、それを上手くひっくり返すことで、新しい取組みが生まれるという形のひとつであったかと思う。
- ・今回の研究会での取組みを分類していくと、このような活動になっていくのではないかとと思う。

- ・この議論は、今後も継続的にやっていくことが、この研究会の意義であると思う。
- ・この研究会は今日で9回目で最後になるが、横のつながりや新しい考え方を中に取り込むことで強化していくためには、次年度以降のこの研究会でも、今回の横のつながりや交流が、より深まるようなものにしていくことが必要と思う。
- ・この研究会に新しいメンバーを加える中でも、商店街に限らず、周りにいる同じような価値観をお持ちの方を新しく加え、今回の参加者の方にも、この会に継続的に関わりをいただきながら、つながりを強化していく部分にお手伝いをいただくことができないかと考えている。
- ・各自これまでの研究会を通じて感じたことや感想があると思うため、振り返りをチーム内でし、感想を共有してほしい。



### 3.各チームで事業の振り返り感想の共有

「柳橋をまもろー」

○秦 誠二郎

- ・今回この研究会に参加してみて、いろんな商店街の形があることが分かった。
- ・自分は商店街に属していないが、商店街という枠を超え、新しい商店街というものができ、また、店舗がそこになくても活動に参加できて、商店街という形に拘らずになにかできれば、面白いのではないかと考えている。
- ・自分からアプローチし、できることもあると思うので、個人的に動いてやってみたいと思っている。



○糸山 貴美子（みなと銀座商店街振興組合）

- ・年末からインドの田舎の方に行っていたが、お店に行っても閉まっている状況のところもある。
- ・商店街の話をするときに、最初からシャッターが閉まっているなど、暗い話からスタートして、マイナスからどうにかしようとしているように感じられる。



- ・日本のクオリティは高く、インドではお店が砂埃であったり、賞味期限がきれたりなどもある。
- ・日本のもっている技術は高いため、もっと気楽に頑張ればいいのではないかと思う。
- ・海外ではマーケットが発達しており、それが売り方になっており、毎日開いているものではなく、曜日や週末だけ集まるマーケットがあり、そこを目掛けてみんなが行くため、毎日商店街で商売する必要もない。
- ・毎日、来ない場所で、一生懸命人を集めることにエネルギーを使うのではなく、人が来るときを狙って、そこに力を注いで活動するという考え方もあり、インドの視察も面白いと思う。

#### ○木藤さん

- ・商店街を考えると、疲弊している、人通りが少ないものというところから、スタートしているところがあるが、もっと外側から見れば、自分達の商売はすばらしいものということからスタートするという必要も必要ない目線であると思う。

#### 《トウクトウク》

##### ○仲盛 弘樹（香椎駅前商店街）

- ・この研究会に参加し、香椎の商店街の以外の方と知り合え、深く話をすることができ、色んな専門の方や知識のある方と話すことができ、人とのつながりが収穫であった。



- ・今回、香椎の商店街を案内する中で、客観的に見た香椎に対する感想を聞くことができた。

- ・飲食店で言えば、チェーン店があまりないことや、個人のお店が多いことが魅力であるといった意見は香椎の人たちからは聞いたことがなく、まちの一つの魅力になるということに気づかされた。

- ・御供所の御供所饅頭で自主財源を確保している話では、やはりお金がなければ新しいことにチャレンジもできない面もあり、自走する仕組みを作るためにお金を稼ぎ、またそのお金をまちに投資し、魅力的なまちにしていくことができるのではないかと考えた。

- ・香椎でも自主財源を確保するために、自動販売機で香椎のオリジナルラベルの水を販売し、子供でも香椎のまちを応援できるようなものにできないかと考えている。

##### ○田崎 浩史（花みずき通り商店会）

- ・花みずき通り商店会は城南区の中では発展しているが、お店が少なくなっており、お店が撤退した後は、自分達が求めるお店にはなかなか入ってもらえない状況がある。



- ・自分だけの力では、この状況を解決するのは難しいと感じていたが、この研究会に参加し、木藤さん

んが油津商店街を再生されたことはすごいことだと感じた。

・今回研究会に参加し、自分の商店街を客観的に見れたこと、それぞれの商店街で、抱えている問題が似ているところもあるが、全く違うところもあることを知ることができたことが収穫である。

#### 《ハナマス会》

##### ○高木 健太

・学生という立場で今回参加し、商店街が必要かどうかも含め根本的なことから研究する中、市が実施した商店街実態調査を見ても、後継者不足、アーケードの老朽化など、イメージが分からない部分もあったが、この会に参加して現場に行ってみると、色々と気づかされることがあった。

・花みずき通り商店会に行ってみて、行政の区画整理

などによって、いわゆる商店街には見えないような状態になり、色んな課題があることにも気づいた。

・ひとつのイベントの成り立ちから、各商店街で抱えている課題が全く異なるということも、現場に行ってみて、話して、聞いて、それで気づかされた。

・このような機会がこの研究会の中であったことは、すごくよかったと思う。

・同じチームの周船寺商工連合会の谷さんは、実際にこの研究会に参加されたことで、周りの人たちが、自分も何かしようとか、自分もこんなことを考えているなど、周りにそのような人がでてきているということで、そのような良い影響にもつながっていると思う。



##### ○谷 直親（周船寺商工連合会）

・この会に参加して最初に、自分の周船寺の魅力は何だろうと思うことから始まり、結果として、まだ見つけられていないのが現状である。

・各商店街にそれぞれに悩みや思いがあり、解決方法もたくさんあると思う。

・今回この研究会で5チームが調査した内容を、周船寺商工連合会で発表したところ、商工会の中

でもチームを作り、まちの活性化にやる気のある人を集めて、何かやってみようといった話や、こんなことを考えているという人から一緒にやってみないかといった話もあった。

・一人の力だけでは無理であるが、何かやってみたい、行動に移してみたいという人達と一緒に周船寺に刺激を与えながら、活性化できればと思う。



## 「山あり谷あり」

### ○正木 研次（上川端商店街振興組合）

・今回、箱崎と六本松を調査し、箱崎では九大が移転し、筥崎宮の周りに固まってお店があるわけでもなく、商店街として筥崎宮と連携した取組みもないとのことであるが、まちを歩いてみると、箱崎には町家がまだ残っており、箱崎にも宝があるのではないかと感じた。

・六本松では、九大が移転した後、裁判所や

マンション、ショッピングの場もでき、人口も増え賑わいがあるが、六本松の商店街の方に話を聞くと、人とのつながりや、地元を愛していこうという思いが、薄くなってきているようで、今後もそれが進んでくる可能性があるということで、心配な面もある。

・お互いの商店街、まちに行きプラス面、マイナス面を見て、実際に見てみないと分からないことはたくさんあると感じた。

・今回の研究会で得た様々な情報は、今後いろんな商店街での検証の材料になると思うが、これをどう生かしていくのかは、今後も検討していくべきであり、何か形にしていくことも必要であると思う。



### ○谷口 真

・今回参加したことで、コミュニティができたこと、客観的に見るということができたことが収穫であった。

・フィールドワークを繰り返し行うことで、箱崎エリアの可能性として、筥崎宮や町家の存在を確認することができた。

・今回の研究会に参加してみて、人によって見方が違うということにも気づかされた。

・課題解決的にここが悪いと言う人もいるが、それをもっとポジティブに捉えればいいのではないかなと思うこともある。

・どちらが良い悪いではないが、人それぞれに考え方があり、それを踏まえた上で前向きやっていければと思う。

・自分が関わっている箱崎を対象としたフィールドワークができ、今後、箱崎エリアでの関係人口をもっと増やしていければと考えている。

・本来、人口の増加と商店街の活性化が、比例関係にあると思うが、箱崎では人口が減少しているエリアではないのに、それが相反しているということは、そこにいる人たちが関わっていないということが見えてきていると思う。





・商売に限らず、そこに住んでいる人たちが、どう関わられるかを模索しており、キーワードとして「家びらき」や「住みびらき」などがあり、今後チャレンジしていきたい。

#### 《岩永会》

##### ○原田 圭悟（イムズテナント会）

・研究会に参加することで、チーム内で知り合いになれたこと、商店街の方と知り合いになれたことが、とてもありがたいと感じている。

・商店街が何かよく分からないままに参加し、今でもよく理解できていないが、商店街という枠に拘らずに、つながりを活かしながら、新たな商売もできるのではないかと思う。

・この研究会を機会に、自らアポイント取りながら、チャンスを探っていこうと考えており、相談を受けた場合は、快く対応してもらえればと思う。



##### ○渡邊 輝彦（大橋商店連合会）

・岩永会というチーム名や、発表会の構成なども、自分の思いついたことを提案すると、快くみんな受けてもらえるこのチームのメンバーが大好きで、今日で最後になるのがさみしいが、今日で終わりということではなく、今後もみなさんとお付き合いできればと思う。

・これまで違う商店街を歩くということはあったが、その商店街の人にアテンドしてもらい、さらに自分の他にも違う商店街の人がいるということで、自分の視点と、当事者の視点とまた他の視点があるということが新鮮であった。

・みんなで商店街やまちを見て、色々意見交換をすることは貴重な経験で、目を養うということ、いろんな物の見方ができるようになったと思う。

・最初参加した時には、商店街は一度壊した方が良く発言したが、商店街の組織の可能性を考える中で、組織のあり方を変えていけば、まだまだ商店街の存在意義は大きいと感じた。

・まちづくりのための一般社団法人を設立したが、まちづくりも商店街づくりも、人を育てるところに尽きるのではないかと。

・自分だけが成長するのではなく、組織のメンバー、加盟店舗など周りの方の意識も変えていかなければ、これから商店街としては難しいと思っている。

・可能であれば、来年もこのNEXTチャレンジャーに関わらせてもらい、まだまだ色々な人と触れ合いながら勉強していきたいと思う。



#### 4「MY NEXT」～私のチャレンジ・私の夢～

木藤さん：この商店街NEXTチャレンジャー育成事業に参加して学んだことを踏まえ、今後チャレンジしてみたいことや夢をパネルに書いていただき、おひとりずつ写真も撮りたいと思います。

事務局：写真については、次年度のこの事業の参加者募集のチラシや、ポスターに使用しようと考えています。

(参加者がパネルに各自記入)

木藤さん：時間の関係もあり、全員の方に発表してもらう時間まではありませんので、パネルに書いた内容について、チーム内で共有をお願いします。

(チーム内で共有)

木藤さん：ここで数名の方に「MY NEXT」を聞いてみたいと思います。

○江崎 明男（柳橋連合市場協同組合）

- ・「他の商店街で飲む、できればおごりで」
- ・この研究会で色々な商店街の方とのつながりができたため、他の商店街にも行って、またいろんな話を継続して聞かせてもらおうと思う。
- ・継続して聞くことによって、新たなに発生した課題などの新しい話も聞くことができ、また、そのときに取組もうとしたことが、その後どうなったのかなど、聞くことを続けていきたいと思う。



○杉本先生

- ・福岡大学で14年目になるが、今年商学科の受験生が激減しており、福岡大学の商学科を九州一にしたい。

○飛田先生

- ・1つ目は「アップデートし続ける」ということで、この研究会でも、ひとつのテーマとして、商店街のアップデートということがあり、商店街にどうやってイノベーションを起こすのかということもテーマであったと思う。
- ・イノベーションとは、何か新しいことをやれというわけではなく、商店街の価値の再定義や、商店街ってなんなんだろうということや、物売って、イベントをやる、ということではなく、何で物売するのか、何でイベントをするのかということも、みんなで考える場であったと思う。
- ・2つ目は「規範をぶっこわせ」ということで、これまでの価値観、レガシーで積み重なったものがあると思うが、それはいい意味でリスペクトしつつ、時代に合わせて形が変わるように、壊していかないといけないだろうと思う。

・商店街も、自分の研究テーマである中小企業も、働いている大学も、大事なものは残しつつも、壊せるものはしっかり壊して、また、組み直していくことが重要と思う。

木藤さん：最後に私と今村部長の書いたものを紹介  
します。私は、あと5年で50歳になる  
ので、「金髪でも許される50歳」になり  
たいと思っています。

そのぐらい刺激的な、とがった商店街の  
プロジェクトをやって、金髪でもこのよ  
うな場で喋って許されるような人になり  
たいと思っている。

金髪が似合う50歳を目指したいと思う。

今村部長：明日から金髪にしてもいいのでは。

木藤さん：まだ金髪は似合わないの、もう少ししたら似合うようになりますので。

今村部長は何と書きましたか。

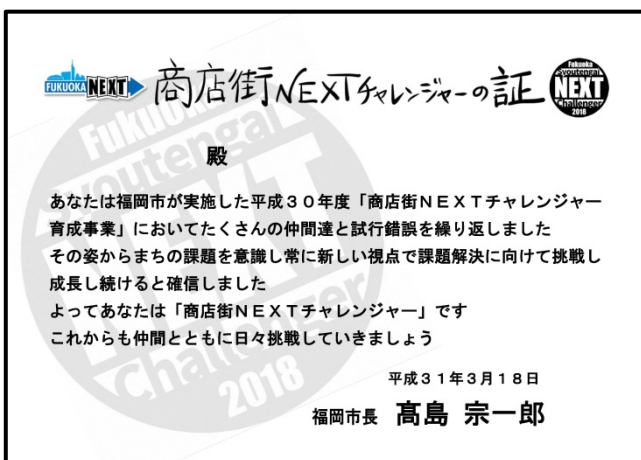
今村部長：「大人が楽しく学び合うまち福岡」

この学びの場の雰囲気はすごくよく、このようなみんなが前向きに物事を考えられる場所  
を市内のあちらこちらに作って行って、大人が楽しく学び合うことが当たり前の福岡の文  
化になればいいと思う。ここでの成功体験を広げていけば、だんだん大きくなっていく  
と思うので、みなさんには伝道師になっていただきたい。このように集まって学ぶことが  
楽しいことだと周りの方に言ってもらい、是非来年のこの事業へ送り込んでほしい。



## 5.商店街NEXTチャレンジャーの証の交付

※本事業への参加者全員に「商店街NEXTチャレンジャーの証」を交付





木藤さん：最後に事務局からお願いします。

#### 【事務局】

- ・この事業は、来年も継続して実施していこうと考えており、是非来年の募集のときは、今回経験されたみなさんが、周りの方にこの事業に行っていこうと是非声をかけていただきたい。
- ・今回1年目で参加してもらった方には、2年目のこの事業には別の形で関わってもらおうと考えており、また詳細については連絡しますので、引き続きこの事業に関わっていただければと思う。
- ・来年度市の方で「イノベーション Month」ということで、全国のいろんな商店街やまちで活性化に取り組まれたキーマンの方を全国から福岡にお招きし、トークセッションなどを考えており、NEXTチャレンジャーの方にも関わってもらえればと思っている。
- ・今日最後に書いてもらったパネルについては、2年目の参加者の方にみなさんの所に行ってもらって、どうなりましたか、といった聞き取りなどもできれば面白いかと考えている。

#### ○木藤さん

- ・1つ目は、声掛けをしてほしいということで、同じ商店街の仲間や、ここに参加したら面白そうだった周囲の方に声掛けをしてほしいということ。
- ・2つ目は、1年目の方はメンターとして、2年目の方も最初はよくわからない感じになるため、ア

ドバイスや1年目のことなどを話す対話の場をつくりたいということ。

・3つ目、「商店街のイノベーション Month」では、商店街の事例以外にも、地方創生やまちづくりなども分野で活躍されている方もいるため、そのような方も呼ぶことで学ぶ機会にもなり、1年目の方には企画側にも関わってもらうことで、このような動きを福岡市でやっているということを発信できれば良いと思う。

木藤さん：みなさん、どうもお疲れ様でした。また是非、みなさんお会いしましょう。

